

森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会発表概要

① 活動報告課題名

広島県竹原市・植樹を通じた暮らしと森のつながり

② 発表団体名

特定非営利活動法人 地球と未来の環境基金

③ 発表概要

活動場所: 広島県竹原市

活動内容

広島県が位置する瀬戸内海沿岸は、雨が少ない独特の気候のため山火事発生件数の非常に多い地域となっています。竹原市でも1994年8月に山火事が発生しました。この年は極端に降雨が少ないことも影響し火災は9日間続き約380ヘクタールの森林が焼失、大規模な山火事となりました。火災鎮火後から森林を再生するため植樹など以後15年近く行われてきましたが、花崗岩で急勾配の山肌は、砂状の土壌で養分が少なく痩せているため苗木が根付かず、今も剥き出しになった場所が目立つ状態となっています。

そこで当団体では地元森林組合・行政、企業と共に実行委員会を組織し、2004年より毎年200名前後の参加者とともに、急勾配な砂地の山肌でも苗木が根付くように稲ワラを積み上げる工夫(積苗工)も行いながらマツ、ヤマモモ、サクラなどの植樹活動を行ってきました。

また、2012年からは森林を守ることが自分たちの暮らしとどのようにつながっているのかを少しでも参加者に体感いただくため、海まで視野を広げ地域の豊かな自然を知るクルージングツアーをはじめ、「食」を切り口に牡蠣養殖業者、瀬戸内産の果実を原料にジャムづくりを行う企業、地下水を原料に酒造りを行う酒蔵など地元の方々と連携して植樹後にオプション企画を実施。植樹の作業に留まらず、暮らしと森林のつながり、また活動地域の人やそこから生まれる恵みを5感を通じて知っていただく機会づくりに取り組んできました。

活動の成果:

2004年より活動を開始後2009年まで5年間で焼失エリアにある民有林(保安林)約2.5haで6,898本を植樹、その後2010年～2013年はこれまでの植樹地と隣接した国有林に場所を移し約2.45haに4,400本の苗木を植えました。さらに2014年・2015年は竹原市市有林へ移り約1,200本を植え、実施できる面積は毎年わずかなものですが、着実に植樹を進めこれまでの3014名の参加で合計5.7ha、12,658本を植栽し、当地の被災跡地でボランティアとして植樹できるエリアをほぼ植え終えることができました。初年度植えたものは2mを超えるまでに成長し、剥き出しの山肌には徐々に緑が戻りつつあります。

また、活動の継続により学校行事として本植樹活動に参加下さっている県立竹原高校ではイベント前に当地で起きた山火事、森林の機能等について学習の機会が設けられるといっ

た環境教育での拡がりもありました。

これから：

約11年継続してきた本植樹活動はひと段落し、今後は草刈などメンテナンスが中心となります。一定程度の大きさに苗木が生長するまで継続してメンテナンスを行いながら、成長度合い・活着率などの経年変化を森林組合、地元行政、企業など実行委員会の方々と共有することで、森林保全また植樹による再生の意味、意義を深めていきたいと考えています。